

広島城北高等学校同窓会報

Shirayama

しろやま・2020.9.0.No.42

発行人 佐伯 祐 司

編集人 宮 本 誠

発 行 広島城北高等学校同窓会 広島市東区戸坂城山町1-3



同窓会長 挨拶

同窓会の運営につきましては、会員の皆様から多大なご協力とご支援を頂いておりますこと心からお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大にともない、同窓生の皆様も大変なご苦労があるものと、心からお見舞い申し上げます。同窓会におきましても、諸行事を中止とし、役員会も正副会だけの開催、書面審議といたしましたので経過を報告いたします。

2月18日の役員会を開催した後、3月～6月までの4回役員会を中止いたしました。その間、4月16日正副会長会議を開催し、5月のチャリティーゴルフ大会、10月の大懇親会の中止を決定いたしました。また、現役学生への奨学金の実施は、その意義を鑑み例年通り実行させていただきました。それに伴い、費用面から会報誌Shiroyamaの発行休刊とさせていただきます。7月は、何とか役員会を開催さ

同窓会長 佐伯 祐司 (12回生)



せていただき、経緯を出席役員の皆様に報告させていただきました。今後も、10月の

総会は開催予定ですが、新型コロナウイルス感染状況を見ながら、場合によっては、ホームページでの事業報告、収支決算報告、事業計画(案)、予算(案)他議案の提示をさせていただき、ご意見のある方はメール、また、書面でのご意見をいただき審議させていただく場合もあるかと思っております。

令和2年3月末現在、同窓生が前年度卒業の55回生233名を加えて16,205名となりました。今後も会員の皆様には、進んで関わりを持っていただき、母校の発展のためご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、会員の皆様の今後のご活躍を祈念して挨拶とさせていただきます。

理事長 挨拶

同窓生の皆様方におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、平素より母校の教育活動にご理解とご協力を賜り心より感謝いたします。今年7月1日付で理事長に就任いたしました上野でございます。微力ながら学園経営に全力を尽くす所存ですので、今後とも宜しくお願い申し上げます。私は、昭和39年に広島城北中学校(当時は鯉城中学校)に入学し、同45年に広島城北高等学校を卒業しました5回生であります。卒業後は、広島大学から広島銀行に就職し33年間勤務したのち、13年前から現在の自動車関係の会社経営に携わっております。中学1年から始めた剣道は今も続けており、現在広島城北剣道部OB会長も務めさせて頂いております。

さて、昨今は少子化による受験人口の減少や、公立の中高一貫校の新設など私学を取り巻く環境は厳しいものがあります。本学園は開校以来60年間、私立中高一貫の男子校として一定の評価を受けてまい

理事長 上野 孝史 (5回生)



りましたが、さらなる教育体制充実を目的として令和3年度より、医師を志す生徒に対して全力でサポートする「医学科進学コース」を新設し、生徒募集を開始いたします。また、難関大学、中堅大学を目指す「特別進学コース」や生徒の個性を伸ばす「探求コース」の新設も併せて企画中であります。高等学校からの入学希望者には、JO入試、ME入試をより拡充させ、幅広く能力のある生徒を受け入れていく方針であります。幼稚園においては、老朽化した園舎の建替えも5月に完了、併せて「幼保連携型認定こども園」に移行し、新たにスタートいたしました。

これからも本学園の特色を活かし、益々魅力ある学園づくりに教職員が、一丸となって取り組んでまいります。同窓生の皆様方には、本学園に対してこれまでと同様の温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

校長 挨拶

同窓会報誌Shiroyamaにご挨拶させていただく機会をいただきお礼申しあげます。

今年度はCOVID-19の影響で長期の休業を余儀なくされ、学校としてあたりまえのことができない日々が続く、特に授業ができないことに対してどのように対応すべきか悩む日々でありました。さいわい保護者のご理解のもと、中2・3、高2・3の各生徒が個別のタブレットを使用することができる環境整備が整っておりまして、時間割を作成してすべての教員が協力して授業を行うことができました。現時点では中1、高1にもタブレットが行き渡り全員で教育活動を行うことができることとなりました。

学校行事に関しましても、遠足、運動会、体育祭などすべて中止となり、授業だけでなく特別活動も思うようにできず、日々苦慮しております。

このような時期にも関わりませず、高校生対象の「奨学金給付」も引き続きご支援賜り、心よりお礼申し上げます。

さて、元号も平成から令和に変わり、新たな時代に向かって歩み始めるこの時期であることもその理由の一つかと思いますが、59年目を迎える城北中・高等学校をこれまで支えてくださっている「同窓」という言葉に、これまでにない重みを感じております。

校長 岩本 光彦



日本の教育は学習指導要領が改訂されるたびに「変革」ということが叫ばれてきましたが、いよいよ現在の高校3年生からセンター試験に替わり、共通学力テストが始まります。どのような力が問われるのか、どのような切り口から問われ、どのような力を養うべきか、高校3年学年会を中心として教育内容に反映すべく努力を重ねております。

また、ここ数年学校改革を「将来構想委員会」と称する検討会議で議論を進め、現時点では具体的な内容をプロジェクトの中で詰めております。まずもって令和3年度から「医学科進学コース」を中学校から募集いたします。卒業生で医学界で活躍されている多くの方々の支援をいただき、6年間かけて「医」の心を育てるコースとしてスタートいたします。高校におきましては、「特別進学コース」の内容を一新して編成いたします。生徒がどの位置に立っていても、それぞれの持つ可能性を最大限に生かすことをこれまで同様進めてまいります。

同窓生のみなさまが大切に育ててこられた城北魂を、さらに新生成北の教育に生かしてまいります。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

副校長 挨拶

同窓生の皆様、初めまして。今年度より副校長を務めさせていただきます松井太(まついふとし)と申します。昨年度まで、広島県立高校に37年間勤務してまいりました。県立高校では賀茂高校と尾道北高校で校長を務めました。教諭時代は、教科は英語、進路指導を主に校務分掌として仕事をしてまいりました。

現校長の岩本光彦先生には、尾道北高校勤務時に先輩・上司としてご指導いただいた経緯があります。その時の出会いがここ城北での再会につながるとは、その当時思ってもみませんでした。不思議です。

賀茂高校の4年間を除いてほとんど尾三地区で勤務しておりましたので、広島城北は教師としてあまり縁のなかった学校です。ところが思い起こせば不思議なもので、高校入試を前にした約45年ほど前、担任の先生から「広島に城北という高校があるので受けてみないか？」と勧められたことがあったのです。その当時、橋もかかっていない離島因島の、今となっては廃校となった中学の、塾にも行ったことのない田舎の生徒だった私は、全くその気になりませんでした。ピンとこなかったわけです。住んでいる世界が違っていたわけです。しかしその時以来不思議と城北という名前は自分の中に残っていました。不思議です。

何年前か、岩本先生の紹介で何名かの先生方とお会いする機会をいただきました。みなさん見識も高く、熱意もあり、県立とは一味違う味をお持ちの方々だなと感じたのを覚えています。4月になり本校に来てみると、その時出会った先生方が熱心に持ち味を発揮さ

副校長 松井 太



れているのを見て、これも出会いだなと不思議なご縁を改めて感じました。

城北の職場に感じるののは、県立学校に比べ先生方の参画意識が高いということです。特に、生徒に力をつけること、進路実現へのサポート、生徒募集等、熱意では県立学校の先生方に勝っているように感じます。私自身は限られた経験と知見しか持っていませんが、城北の先生方をはじめスタッフの皆さんの前向きな思いに共感しながら、皆さんの経験や知見と呼応し、いい仕事ができればこれ以上幸せなことはありません。

教育の新しい在り方について、実は新型コロナウイルスの感染がそれを後押ししている感もあります。ネットやAIを活用した個別最適の学び。その一方で集団で過ごす学校の存在意義の再構築。変化の大きな時代ですが、生徒も教師も、不安に耐えつつ希望を創造する知性を鍛える時だと思えます。早く生徒の元気な顔を見たいものです。(5月時点)。

同窓生の皆様、どうか新しい城北に期待してください。微力ながら皆さんの母校に対する誇りを、少しでも後押しできるよう精進してまいります。よろしくお願いいたします。

〈追記〉新型コロナの関係で、因島からの遠距離通勤をあきらめ、現在戸坂に単身で住んでいます。買い物袋を下げてうろうろすることも多いと思います。ご遠慮なくお声がけください。

第45回同窓会 総会・懇親会 御礼

令和元年10月5日に開催されました第45回同窓会総会・懇親会には、多くの同窓生の皆様にお集まりいただき本当にありがとうございました。幹事を担当しました33回生一同、心より御礼申し上げます。また、特に多くお集まり下さいました、還暦の年にあたる13回生の皆様に改めてお祝いを申し上げます。

33回生は、昨年6月2日の奨学金チャリティーゴルフ大会と、総会・懇親会の幹事という2つの行事を無事に終え、大役を何とか果たすことができたことに安堵しております。そして、これらの取組の中で33回生の絆を再確認することができ、貴重な機会を下さった同窓生の皆様に深く感謝しております。

今回の懇親会では、オープニングに吹奏楽部の皆さんと33回生で音楽家の戸田康平君とのコラボ映像を上映し、会場では在校生の活動を支援するためのカンパを募るなど、「在校生をいかに支援するか」を基本方針とさせていただきました。当日は吹奏楽部の皆さんによるスキマスイッチの「奏」の演奏が好評で、多くの皆様がカンパに協力してくださいました。本当にありがとうございました。

令和2年に入ってから新型コロナウイルス感



染が広がり、人と人との接触を減らす方向へと社会の雰囲気がかかりと変わってしまいました。その中で、広島で最も早い時期にICT機器を授業に取り入れた学校として母校、広島城北高校が注目を集めたことは非常に誇らしいことでした。

社会環境がどう変化しようとも、生徒が常に生き活きと学べる学校として、これからも母校が堂々と発展できるように、これからも積極的に協力する城北高校同窓会であってほしいと願いますし、我々もその一員として行動して参りたいと思っております。

広島城北高校の益々の発展と、在校生の充実した学校生活、そして、同窓生の皆様のご多幸をお祈りし、甚だ簡単ではございますが、総会担当回生からの御礼の言葉とさせていただきます。皆様本当にありがとうございました。

33回生一同



広島城北医会並びに広島城北歯科医会 総会・合同懇親会

広島城北歯科医会 加藤 正昭 (27回生)

令和元年11月16日(土)午後7時より「広島アンデルセン」にて広島城北医会及び広島城北歯科医会の合同懇親会が行われた。懇親会に先立ち、午後6時より「広島発..世界へ ～オタフクソースグループ及び創業家のガバナンス～」と題して、オタフクホールディングス代表取締役社長の佐々木茂喜氏による講演が行われた。国内のみならず海外でも事業展開されている、オタフクソースグループの経営の概要と社員教育や福利厚生での取り組みの紹介、家族経営の抱える問題とその解決策について講演された。講演後、医会、歯科医会それぞれの総会が行われた。

合同懇親会には、来賓として中本弘理事長、佐伯祐司同窓会会長、岩本光彦校長、藤田宏副校長、中川耕治教頭、佐々木茂喜氏の6名を迎え、石田一輝歯科医会理事の司会のもと盛大にとり行われた。

まず長井敏弘広島城北医会会長の挨拶があり、2020年度の大学入試改革について、受験生の個性を見るため面接が幅広く導入され学力だけの評価ではなくなるということを述べられた。続いて今井正人広島城北歯科医会会長は、今期で会長を退任する旨の挨拶をされ、歯科医会総会で承認された平岡弘光次期歯科医会会長を紹介した。続いて中本弘理事長、佐伯祐司同窓会会長、岩本光彦校長から来賓挨拶があり、同窓会も会員数がいよいよ16,000人となることや、大学入試改革への対応について説明された。

平岡弘光歯科医会副会長の乾杯の発声があり歓談に移行した。皆お酒も入り、同期の友人だけでなく医療分野で活躍する先輩、後輩との楽しい会話が弾み、終始和やかな雰囲気の中進行した。最後に全員で校歌斉唱をし、竹岡秀生医会学術幹事の閉会の辞を以って閉会となった。



古希を祝う会

寄稿者 大平 章(3回生)

この度、広島城北高校三回生・関東近辺在住者の「古希を祝う会」を2019年10月19日に池袋東武デパート15F「華湘」で開催しました。

当日は9名の同窓生、1名の旧職員に参加していただき、昔の思い出話に花を咲かせながら楽しいひと時を過ごすことができました。柴村(旧姓 野村)隆子先生も80歳になられ、同時に傘寿をお祝いするという実にお目出たい会になりました。同窓生全員がまた次の喜寿を祝い、また先生をお招きすることができればと思っているしだいです。皆様方のご健康をお祈り申し上げます。



後列左より／小野田(旧姓 松田)博、室田英明、上野和則、大平章
前列左より／古月好行、大歳幸男、柴村(旧姓 野村)隆子先生、
綿巻徹、桂啓壮、河原正則

広島城北高等学校45回生同期会

岡林 孝治郎(45回生)

2020年2月23日(土)、中国小皿料理拍拍飯店にて45回生(2010卒)同期会を開催しました。数学の大下(弘)先生、渡辺(邦)先生、古典の村上先生、生物の林先生、英語の下木先生をお迎えし、総勢約30名の懐かしいメンバーで親睦を深めました。

今回は卒業10年の節目として開催する運びとなり、成人式以来の同期が集まる会でした。住所が分かる方には葉書で告知し、そうでない方は45回生専用FacebookページやLINEのグループトークを駆使し、互いに声を掛け合うなどして参加を募りました。初めての学年全体を呼んでの会の幹事でしたので、不安を抱えながらも、案内を送る際に懐かしく目にする名前もあり、久しぶりに会えることにワクワクしながら、開催当日を迎えました。

当日は弘先生の乾杯の挨拶から始まり、各々の席で歓談を楽しんでいました。その後は自由に席を入れ替わりながら、同級生同士、また先生方と交流していました。

当日は広島市在住の参加者が中心だった中、東京、大阪、北九州、沖縄等遠方から駆けつけてくれた同期もいました。中には、研修医として頑張っている人や飲食業を開業した人、これから起業を考えている人など仕事の話や、結婚して家庭を持っているといったプライベートの話など、最後まで話題が尽きることなく盛り上がりました。

ラストは先生一人ひとりから久しぶりの授業を行ってもらい、大変ありがたいお言葉をいただきました。感謝の想いとこれからも頑張るぞという想いでいっぱいになりました。総括すると思い出に残るとても良い同期会になったのではないかと思います。

最後になりますが、この度の同期会開催におきまして、ご協力いただいた皆さま、ご参加いただいた皆さま、本当にありがとうございました。次回開催の際は、よりたくさんのメンバーで開催できればと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。



53回生「成人の集い」

早稲田大学政治経済学部経済学科2年 永野 佑太 (53回生)

「成人の集い」の話が始まったのは、高校を卒業してまだ1年も経っていない頃、木村先生に「よく城北生で集まっている」という東京での近況報告をしていた時でした。その話の最後に、木村先生は「東京だけじゃなく、もっと大勢でもね…」と意味ありげに呟いたのです。

木村先生の呟きは脳裏にこびりつきました。どういう意味で言ったんだろう。

成人の集いのことについては、高校の古典の授業中に何度か聞いたことがありました。木村先生はそのことを言ったんだろうか。

今となっては真相は闇の中ですが、結局、木村先生のじわじわと使命感を感じさせる呟きに屈して成人の集いの幹事に手を出してしまいました。

どうせやるなら大きくやろうと意気込んだ僕は、前回の成人の集いを主催した学年はどうやら9月から準備に取り掛かったらしいことを聞きつけ、ゴールデンウィークから本格的な準備に取り掛かりました。ちなみに今これを書いているのもゴールデンウィークです。書くのがめんどくさくなるから、成人の集いの後すぐ書くという木村先生との約束を破ってしまいました。木村先生ごめんなさい。

本格的な準備と言っても最初は主に出欠確認です。いくらLINE が普及しているとはいえ、200人と意思疎通を図るのは一苦勞でした。次にホテルの予約、先生への招待状、会の進行作成、人数集計と、とにかく多くの段取りを踏みました。ホテルからのメールに気付かず3 か月無視してしまったり、招待状の往復はがきの作り方が分からず先生の名前を書く欄に自分の名前を書いて出してしまい、返ってきたはがきが誰からののはがきか分からなくなったりと、色々な失敗を乗り越えて、ついに1/12。無事当日を迎えることができました。

卒業してから約2年。2年ぶりの再会。皆すごく大人になっていた気がしました。心配していた酒癖の悪さも杞憂に終わり、無事タイムテーブル通りに進めることができました。

とにかく手伝ってくれた友達や、ホテルの関係者に感謝の気持ちでいっぱいです。今では木村先生の呟きにも感謝しています。

これを読んでいる後輩には「準備には早く取り掛かること、往復はがきの作り方はちゃんと調べること、レポートは早めを書くこと」を伝えたいです。



退職を迎えて

私は、1983年4月に広島城北中・高等学校の社会科教員として採用され、今年の3月末で定年退職致しました。広島城北学園で37年間、お世話になりました。この間、軽い脳梗塞をおこして入院したことも二度ありましたが、こうして何とか定年まで勤めることができましたのは、教職員の皆様、同窓生・生徒・保護者の皆様のおかげだと、心より感謝しております。本当に有り難うございました。

就職した当時は何も分からず、同じ社会科の先輩教員だった加藤晃司先生には、随分とお世話になりました。定期テストの前になると夜遅くまで学校に残って、問題の作成や印刷などをして何とか

坂本 正之



試験に間に合ったということもありました。今となっては、懐かしい思い出です。

現在、新型コロナウイルス感染症の収束はまだ見通せませんが、政府の専門家会議が示した「新しい生活様式」を踏まえて、これからの第二の人生を過ごしていきたいと思います。皆様も、くれぐれもお気をつけてお過ごし下さい。

最後になりますが、広島城北学園のさらなるご発展と、同窓生の方々のこれからのご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

退任 挨拶

今年3月末をもちまして退職のはこびとなりました。同窓生の皆様方には機会あるごとに温かい励ましのお言葉を賜りました。ありがとうございました。

筈星が大接近の、'86年4月、広島城北学園中・高の非常勤講師から私の教員生活が始まりました。中学校理科や理科Iで3年間授業を担当させて頂きました。旧校舎の主に理科室で、今は亡き東条先生をはじめ、先生方から多くのご指導とご厚情を賜りました。その後、ご縁を受けて再び、'14年4月から6年間、城北の教育に参加させて頂けるようになり、34年間の教員生活の熟成期に、誠に幸運な日々を過ごさせて頂きました。心から感謝申し上げます。

藤田 宏



城北健男兄の学園では、自発性の豊かな先生方が集まり、「面倒見の良さ」を発揮されています。お邪魔にならるように、管理職・事務局・先生方の手助けを担当させて頂きました。当初は先生方の奔放な動きに戸惑いましたが、諸先輩方のご助言をうけて、臆て何が起きても事後に応じられるよう励みました。多くのお力添えを頂き幸いでした。

溝傍に胡瓜草、微々なる藍花をながめ、その質素な佇まいと可憐さに心もゆるみます。忍冬の香りが嬉しいこの頃です。

広島城北学園のますますのご繁栄と、同窓会の皆様方のご健康とご活躍を祈ります。

訃報のお知らせ

元校長の田辺範和先生(享年73歳)が令和2年3月7日にご逝去にされました。

田辺先生は大学卒業後、数学科教員として広島城北学園に勤務し、進路指導部長、総務部長を歴任され、平成13年から教頭、平成17年から平成20年まで校長を務められました。

毎年、同窓会総会で卒業生と楽しそうに談笑

同窓会事務局長 宮本 誠(19回生)

される姿や大きな声で校歌を歌われる姿は、忘れられません。

先生の城北愛を教職員、同窓生で受け継ぎ、広島一の愛のあふれる学校にしていきたいと思っています。

田辺先生ありがとうございました。いつまでも広島城北を見守ってください。